平成 29 年度国臨協関信支部地区代表者会議議事録（要旨）

日時：平成 30 年 1 月 13 日（土）13：30～17：15

場所：国立がん研究センター中央病院 管理棟 1F 第一会議室

出席

国臨協関信支部峰岸正明支部長、山崎正明副支部長、吉田茂久副支部長、工藤元記事務局長、椎名將昭理事、齊藤友永理事、岡村康子理事、中谷穂理事、若林弘理事、中根丈裕理事、柳進也理事、中尾知江美理事、林亮相談役

欠席

竹内智也理事

各地区会代表

茨城地区会：永井信浩会長、栃木地区会：久間修平会長、群馬地区会：清水紀臣会長、埼玉地区会：渡辺靖会長、千葉地区会：小川勝会長、東京地区会：久高果市会長、東京・山梨地区会：長田裕次会長、神奈川地区会：瀬下明子会長、新潟地区会：齊間理会長、長野地区会：金子司会長

1. 開会の挨拶（山崎副支部長）

2. 支部長挨拶

本日はご多忙のところご出席いただき、ありがとうございます。先週末、多磨全生園の加藤技師がご逝去されました、謹んでお悔やみ申し上げます。本日は短い時間ではございますが、知っている顔ぶれですので他人行儀にならず、支部活動が活性化していくための会議ですので活発な討議を行いたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

3. 平成 29 年度関信支部役員・地区代表者自己紹介

4. 関信支部経過報告

1) 事務局

本年度総会員数は前年度と比較して 7 名増の 626 名である。この会員数は、10 月 1 日に本部会費を納入した本部会員数の人数となっている。その他として国立国際医療研究センターのセキュリティー強化の説明、各地区会との連携、文化活動、諸会議の開催について報告した。

Q：事務局に発送する文書の方法について

A：文書の発送は経費節減を目的として、なるべく郵送よりメールを使用して行うことを再確認した。

2) 学術部

研修会を 3 回開催、関信グループ主催の医療職（二）・福祉職キャリアアップ研修を

共催で開催、RA を学術委員会へ移行するワーキンググループ会議を 2 回開催した。

3) 広報部

支部ニュースは平成 30 年 1 月までに紙媒体として 3 回、PDF 版（人事異動：平成 28 年 11 月 2 日～平成 29 年 4 月 1 日）を 1 回発行した。紙媒体の内容としては、定期総会、研修会、学会、国立病院総合医学会など支部活動関連記事と共に、地区会だより、関信グループ研修会などの情報を掲載した。

4) ホームページ

一般用、会員用共に常に新しい情報を提供できるよう随時更新した。

5. 各地区会経過報告

各地区会代表者より組織状況、会議（理事会・総会）、学術（研修会）、広報（会報誌の発行等）、文化活動（レクリエーション等）の報告が行われた。地区会の会員数が地区会報告の会員数と関信支部が作成した資料の会員数に相違があるとの指摘があった。この原因として会員数調査日が、地区会と関信支部では異なった調査日にしていることが考えられる。

6. 関信支部提出議題

1) 事務局

①人事異動調査方法について

調査目的・調査方法についての提案を行い、了承された。

②地区会活動助成金のこれからの在り方について

今後の助成金の割り当て方法についての提案を行った。助成金の支出額を縮小し、その財源を学術活動に当てることを考えている。しかし、学術委員会活動の支出額が現状は不明確である。活動内容と支出額が明確になった時点で再度、支部と協議を進めることとするが、今後の方向性について地区会へ持ち帰り検討してもらうこととした。

2) 学術部

①RA を学術委員会へ移行について

WG から受理した答申書の要旨を報告した。また、現在の RA を学術委員とすること、活動内容、構成員、学術委員会への予算と費用、執行部学術部と学術委員会の役務の差別化、関信支部と学術委員会の関係と会議、規程及び内規の作成、学会賞の対応についての提案を行った。

②第 46 回国臨協関信支部学会について

テーマ、開催日、会場（国立オリンピック記念青少年総合センター）、演題募集方法、地区会紹介ポスター変更などの提案を行った。

③今後の研修会開催場所について

国立国際医療研究センターのセキュリティー強化に伴って使用に制約が出てきている旨を報告し、今後は民間施設も利用しての学会および研修の運営を提案し、了承された。なお、これに関連して費用が掛かることについても了解いただいた。

3) 広報部

①国臨協関信支部単独アンケートの実施について

アンケートの実施を検討した経緯の報告と提案を行い、了承された。

②国臨協関信支部ホームページの改修について

改修についての趣旨説明、具体的改修案とリニューアルプランを提案し了承された。

7. 各地区会提出議題

1) 学術関連 (RA から学術委員会を含む)

Q: 研修会の出席状況を調査することで、出席数の増加となるのではないか。研修会の資料をライブラリーとして共有可能したらどうか。地区会の研修会の相互利用、参加が容易な環境を整備したらどうか。e-ラーニングなどの利用について。

A: 研修会は開催地に近いほど、出席者が多い傾向がある。研修会で撮影したDVDを編集し、DVD録画の有無が判るようにホームページに掲示していきたい。今後、地区会横断による研修会の参加を進めていきたい。なお、支部ではe-ラーニングを構築することは困難である。日臨技によるe-ラーニングを活用していただきたい。

2) 支部学会関連

Q: 今後の開催場所はどうか。地区会ポスターは何を目的とするのか。ランチョンセミナーの開催予定はあるか。

A: 今後は国立国際医療研究センターの使用が困難となり、次回の開催場所は、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催予定である。会場の関係でポスターの掲示が困難となるため、現在別の方法を検討中である。ポスターは「地区会員や地区活動の紹介が目的」であり歴史が長い。最近では各地区がバラエティーに富んだ内容となっている。今後はポスターの目的や表題を提示し、地区の活性化と理事のモチベーションの向上に活用していただきたいと考える。また、現時点でのランチョンセミナーの開催は難しいが、今後実施できるように情報収集を進める。

3) 広報関連

Q: 関信支部ニュースの内容がマンネリ化してきている。もっと興味のわく内容を考えて欲しい。

A: 各地区会の定期総会・研修会の報告がほぼ同じ内容なので、マンネリ化を招いているが、引き続き内容や役員報告は支部ニュースまたはホームページに掲載することで継続していきたい。また、支部ニュース記事を棲み分けしホームページに掲載することを検討中である。

Q: 地区区分の見直しについて

A: 地区会の再編は毎年のように議題にあがっている。現状のままで良いのか広範囲のエリア導入などの方法も考えられるが、各地区会の方でも検討していただきたいと考える。いずれにしても地区会は必要であり、施設間の距離が離れている地

区会もあるが、その地区にあった活動をしていただきたいと考える。また、地区会活動を通して人材育成をしていただきたい。

Q：各地区の会費について

A：地区会費の額については、支部の意向ではなく地区ごとに会員の総意で決められている。毎年、その予算に見合った活動をすれば良いと考える。

4) その他

Q：臨床検査技師の育成について継続・新規の企画をお願いしたい。

A：関係協議会や専門職を含め、より良い研修会を企画、開催出来るようにしていきたいと考えている。

Q：関信支部からのメールの再送信が多い。

A：十分注意して送信するようにしていきたい。

Q：関信支部地区代表者会議と技師長会地区会代表者会議を年 1 回の共同開催には出来ないか。

A：関信支部の地区代表者会議は、メンバーが同じであっても討議する内容が異なりその内容に回答する時間をかなり必要とするので、同時開催とした場合時間が足りないことが考えられる。また、支部役員のメンバーは技師長協議会のメンバーではないので、現実的ではない。

Q：合同交流会の出席はほとんどが技師長だけなので、もっと幅広く出席できる環境づくりをお願いできないか。

A：合同交流会の招待者は技師長だけではなく、その年度に退職した会員全てに招待状を送っている。主任技師などの出席はその施設からの後押しをお願いしたい。

5) 他協議会対応関連

Q：各病院で経営改善を行って効果のあったものの内容や取り組み、または民間病院の経営手法など参考となる内容を紹介（講演）して欲しい。

A：経営改善や職場環境改善については、技師長協議会事業になっている。支部として可能なことは、支部ニュースやホームページに技師長協議会コーナーを設けて経営改善に繋がる情報提供をしてもらうことがあげられる。

8. 相談役挨拶（林相談役）

9. 閉会の挨拶（山崎副支部長）